

平成27年度 総社小学校 学校評価書資料

(A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない)

学校 経営 目標	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（今年度 中間）			自己評価（今年度 最終）			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 心の 教育 の充 実	① 道徳教育、人 権教育、だれ もが行きたく なる学校づく りの取り組み を充実すること により、児童 が気持ちの よいあいさつ や思いやりの 心を生活の中 で実践するこ とができるよ うにする。	・進んであいさつができて いるという回答が80% 以上である。 (児童、保護者、教職員)	教職員… 85% 保護者… 76% 児童… 90%	B	○第1週の「あいさつ」に取り組む週に、 TPOに応じたあいさつスキルについて、具 体的に学級や登校班の児童に指導する。ま た、児童が自己評価できる場を設け、努力 や成長の跡を認め、意欲の向上を図る。 ○児童があいさつに取り組んでいる様子や 家庭での協力を通信等で知らせしていく。	教職員… 97% 保護者… 80% 児童… 92%	A	○現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。 ・児童が主体となる取り組み（計画委員会、中庭での全体活動）によって、 全校に広がったこと、教職員がそれを支援したことが素晴らしい。さらに、 校外で「たすきボランティア」の方や地域の方々に「行ってきます」「帰 りました」が言えるようになってほしい。 ・敬語や目上の方を敬う気持ちもあいさつで学ばせかけになると思われる。 改善策に挙げられている「TPOに応じた挨拶スキル」は高い目標だが、是非 取り組んでほしい。
		・思いやりの心をもって生 活しているという回答が 80%以上である。 (児童、保護者、教職員)	教職員… 93% 保護者… 92% ○友達に優しく 児童… 92% ○友達が声をかけてくれる 児童… 82%	A	○現状通り継続して推進する。	教職員… 100% 保護者… 93% ○友達に優しく 児童… 92% ○友達が声をかけてくれる 児童… 83%	A	○現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。 ・「おもいやり」行動に具体的なスポットを当てた内容（やさしく、声かけ） が示されていることは、分かり易い入り口を示す良い提案となり、高い達 成度が出たと思われる。善行が感謝される喜びにつながり、良いサイクル が生まれることを期待する。 ・「だれもが行きたくなる学校」などの取り組みが成果を見せている。 ・今後も、福祉等との連携によって、個別の家庭環境に対応した取り組みを 継続してほしい。
2 健康 ・体 力づ くり	② 健康教育・特 別活動を充実 することによ り、児童が基 本的な生活習 慣を身に付け るとともに、 目標をもって 最後まで活動 に取り組むこ とができるよ うにする。	・基本的な生活習慣が身に 付いているという回答が 80%以上である。 (児童、保護者、教職員)	教職員… 90% ○早寝 保護者… 70% 児童… 73% ○ノーメディア 保護者… 60% 児童… 77%	C	○1～3年生には、朝読書の時間に睡眠の 話の本を読み聞かせする。4～6年生には、 講演会「すいみんと生活習慣について」、 5・6年生には、教育講演会「ケータイ・ スマホ安全教室」に参加して話を聞く場を 設ける。 ○読み聞かせの児童の様子や講演会の内容 をお便りや通信で保護者に啓発する。	教職員… 100% ○早寝 保護者… 69% 児童… 75% ○ノーメディア 保護者… 58% 児童… 81%	C	○家庭でのルール作りのお願 いや取組の成果を学校保健だ よりや、学級懇談で担任が知 らせすることで、啓発を続け る。	・学校の取り組みや児童の自己評価から、「B」が妥当である。 ・児童と教職員の取組に対する意識は高いが、保護者からの見た達成状況は まだ高いとは言えないので、児童だけがノーメディアに取り組むのではな く、保護者と一緒に行うなど、家庭との連携が必要だと思われる。
		・行事などに目標をもって 最後まで頑張っている という回答が80%以上 である。 (児童、保護者、教職員)	教職員… 100% 保護者… 94% 児童… 93%	A	○現状通り継続して推進する。	教職員… 100% 保護者… 94% 児童… 94%	A	○現状通り継続して推進する	・自己評価は適切である。 ・学習発表会を始め各行事が非常に充実していたことは、運動会の時期変更 などの行事の組み替えが大きな理由の一つと思われる。

3	③ 確かな学力の向上 協同学習を取り入れたりICT機器を活用したりすることにより、児童が進んで学習に取り組むとともに、基礎学力を身に付けることができるようにする。	・進んで学習に取り組んでいるという回答が80%以上である。 (児童, 保護者, 教職員)	教職員… 94% 保護者… 86% 児童… 86%	A	○現状通り継続して推進する。	教職員… 100% 保護者… 85% 児童… 90%	A	○現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。 ・多くの児童が進んで学習し、よく理解できていると思う。先生方の指導のおかげだと感謝する。同時に達成できていない子ども達へのフォローも大切である。 ・先生方の興味を引く授業の工夫が、児童の授業の理解に生かされていると思われる。 ・先生向けの設問では、ICTの活用は次の項目関連となるが、目新しい機材もこの数字に貢献していると思われる。 ・アンケートの自由記述における学校への要望の中で、家庭で頑張ってもらいたいことが多くあるように思われる。児童の一番近くに居る大人は保護者であり、学校任せにするのではなく、保護者も自覚をもって頑張ってもらいたい。
		・授業が分かるという回答が80%以上である。 (児童, 保護者, 教職員)	教職員… 100% 保護者… 86% 児童… 88%	A	○現状通り継続して推進する。	教職員… 100% 保護者… 86% 児童… 92%	A	○現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。 ・実感としてこの数字が上がることは、親としてうれしいことである。 ・チャレンジタイムなど授業以外での学習も「分かる」という実感につながっていると思われる。 ・岡山県や総社市のたしかめテストの結果も相対的に上がっていることもあり、勉強頑張った→段々分かってきた→実際に結果が出た→もっと頑張ろうという良いサイクルができてほしい。
		・国語と算数の単元テストで80点以上の児童が80%以上である。 (教職員)	教職員… 81%	A	○現状通り継続して推進する。	教職員… 80%	A	○現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。 ・感情論でない「わかった!」の確かめ方の一つであるが、「80%が80点以上」の定義を明確化してもらい、もっと「はい or いいえ」で数字が出せないかと感じた。
4	④ 開かれた学校づくり 各種の便り、ホームページ、学校評価、学校公開により、積極的に情報を発信する。	・学校から積極的に情報発信が行われているという回答が80%以上である。 (保護者, 教職員)	教職員… 87% 保護者… 87%	A	○現状通り継続して推進する。	教職員… 91% 保護者… 88%	A	○現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。 ・見やすくリニューアルされたホームページ、校長だより等によって、学校は積極的に情報を発信している。 ・学校の情報発信に関する学校の努力は認めるところだが、保護者の半数以上が「だいたいそう思う」を選択していることが気になる。全ての項目で保護者の理解を深めるために、この項目の充実が欠かせない。 ・各種「たより」について、児童の写真や様々な先生の一言などを掲載すると、さらに保護者の関心が高まると思われる。
		・登下校時の安全確保の取組を行っているという回答が80%以上である。 (保護者, 教職員)	教職員… 98% 保護者… 84%	A	○現状通り継続して推進する。	教職員… 100% 保護者… 84%	A	○現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。 ・できるだけ小さい単位(例:地区懇談会)で情報発信していくことによって、保護者啓発や連携協力が促進されるのではないかと。 ・情報の収集、保護者の不安の種を見つけることが更なる高い評価につながり、その先にある本当に安全な通学路が出来上がると思われる。
		・家庭学習を行っているという回答が80%以上である。(児童, 保護者, 教職員)	教職員… 100% 保護者… 91% 児童… 91%	A	○現状通り継続して推進する。	教職員… 100% 保護者… 93% 児童… 92%	A	○現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。 ・宿題(当たり前のこと)が毎日できる、とても大切なことである。 ・家庭学習における、最低限を示すものさしとして、「教育効果」と「無理なくできる」が両立できる質・量の配慮が感じられる高い数字である。
	⑤ 家庭や地域との連携を深めることにより、児童の安全・安心を確保するとともに、家庭学習や読書の習慣を定着させる。	・家で読書を行っているという回答が80%以上である。 (児童, 保護者, 教職員)	教職員… 92% 保護者… 64% 児童… 76%	B	○2学期に3回ある読書週間に「読書の大切さ」について、学級指導を行う。図書室で借りた本を持ち帰るようにし、読書に取り組める環境をつくる。 ○読書週間の児童の様子や読書の大切さを学年通信等で保護者に啓発する。	教職員… 88% 保護者… 61% 児童… 81%	B	○学活や図書の時間で、本の紹介やよみかかせをすることによって、読書の良さや楽しさを伝えたり、本を借りる指導を行ったりする。 ○メディアチェックカードに読んだ本の題名を記入する。 ○懇談などで家読を推奨する。	・自己評価は適切である。 ・ノーメディアと同様保護者の意識向上が大切である。より家庭との連携を促進する必要がある。 ・子どもと親の認識の違いが大きい。一人当たりの図書貸出し冊数や平均など、客観的な数字で取り組みの成果を評価することも大切だと思われる。